

8月12日

天王山・十方山

平尾繁和

山名	天王山・十方山		山行名	例会		
ルート	J R 山崎駅前～天王山～小倉神社分岐～十方山～水無瀬の滝～J R 大山崎駅前					
山行日	2020年8月12日(水)		天候	晴れ		
参加者	C L : 平尾 S L : 西川洋 女性4名、男性4名 A班: 木田、玉井、廣瀬、B班: 伊藤、倉光、河野 /8名					
ルート概略	コースタイム					
省略	地名	時:分	地名	時:分		
	京田辺他	発 6:30、50	十方山	着	9:40	
				発	9:45	
	J R 山崎 駅	着	7:30	水無瀬の滝	着	10:35
		発	7:45		発	10:40
	天王山	着	8:35	J R 山崎駅	着	11:10
		発	8:50		発	11:30
	小倉神社 分岐	着	9:20			
		発	9:25			
<p>「低山 with 歴史散歩」の第3回目。雨で中止になった第1回目の天王山・山崎のコースを少し変更し、猛暑のなかなので、できるだけ早朝から登り昼前には下山する計画とした。山崎駅前合流、駐車場で準備体操を済ませスタートする。天王山登山口から舗装道を登り、重文の金剛力士像のある山門から聖武天皇勅願という宝積寺に入る。トイレを済ませ昨年末入会の木田さんを中心に自己紹介。宝積寺はかつて秀吉の本陣が置かれた所で、秀吉出世石なるものを横目に見て山中へ入る。朝方曇っていた空も日差しが強まり、樹林の影をたどりゆっくり登る。青木葉谷展望広場で小休憩、大阪方面を眺める、アベノハルカスや大阪城は確認できず。秀吉が味方を鼓舞するため千成瓢箪の旗を掲げたという「旗立松」の展望台から山崎合戦の地をみたあと、禁門の変の十七烈士の墓所をすぎ酒解神社で休憩、最古の板倉式倉庫とされる重文の神輿庫を見る。まもなく山崎城があった270mの山頂につく。水分を補給し木陰で小休止。山崎城の井戸跡をみて先へすすむ。ミンミンゼミの声を聴きながら、小倉神社分岐までは樹林のなかのなだらかな道が続く。途中小型のクワガタムシが落ちていた。小倉神社分岐で小休止後、十方山へ向かう。先年の台風被害の跡が残り、道に倒木が見られた。通れるようにはなっているものの頭上注意の連続。本日の最高点(306m)をこえなだらかな道をいくと十方山(304m)についた。木立のなかで展望はないが天王山から移されたという三等三角点があった。写真をとり先を急ぎ下りに入る。尾根筋の粘土質の道を下り竹林を過ぎると、前方に八幡市や島本町の街なみが広がる。舗装路に出ると名神高速道路の天王山トンネル入口が目に見える。クサギの花が咲いていた。トンネル脇の水無瀬の滝で休憩、水量はあり少し涼気が感じられた。タオルを水でひたし汗をぬぐい炎天へ出る覚悟をする。ここから駅まで島本町から大山崎町へ住宅地のなかを歩く。まもなくJ R 線路脇の道路にで、左手にサントリーウィスキー工場が現れるが、下見でコロナ禍のため見学は休止中と確かめていたので通り過ぎた。道路脇の小さな祠に2本のムクノキが仲良く絡み合う「I ♡ Yの椋」があったので立ち寄り、山崎駅に戻った。猛暑の山行にたくさん参加してもらったみなさん、お疲れさまでした!!!</p>						
ヒヤリハット なし						



7代目の旗立松



山崎の合戦場



酒解神社



天下分け目 天王山山頂 (270m)



山崎城の井戸跡



天王山山頂で休憩



十方山（304m）三等三角点



小岩場



歌

枕 水無瀬の滝

I ♥ Yの涼

一言感想

木田 修司

○8月22日の「秋山登山トレ（比良山）」に向けての足慣らしと、参加しました。4時間ほどの山行に水分を2.5リットルを摂り、大量の汗でズボンまでぐっしょりで、靴に滴り落ちる寸前でしたが、猛暑の中でも、山で汗を流せる幸せを感じています。コロナ禍で、サントリー工場のウイスキー蒸溜所見学は出来ませんでした。歴史散歩を兼ねた企画は今後も参加したいと思っています。

倉光 展子

○暑中登山ということで、リーダーから、強く熱中症対策、特に多めの水の持参を促されていた。登山中も“水を“と、何回も、親切に忠告された。天王山はこれまで何回も登ったが、今ちょうど、「国盗り物語」に興味を持っているので、喜んで参加した。暑さは思っていたほどなく、山間部に入ると涼風がスースーと通り過ぎた。天王山山頂では腰を下ろし、しばらく自然の風の恩恵を感じ、快感に浸った。昼過ぎには下山し、少々物足りなく思ったが、これもリーダーの「コロナ禍の中、猛暑の中、運動不足の体を鍛える」の配慮計画のたまもので、感謝しています。

○天王山 270mに登頂!!

伊藤多恵子

36度、37度という酷暑の中、山に出かけて行けるのも例会のおかげです。普段は家で半分死んでいますから…。どんな低山であっても初めて行く山は楽しいものですね。出発時は暑さでフーフー一言言っている、山中に入れば涼しい風にほっとします。Hさんの滝のように流れる汗を見るのも一年振りかな？新人会員さんも参加して下さいにぎわいました。コースにも工夫をして頂いたCLの平尾さん、毎回本当にありがとうございます。

廣瀬 秀憲

○ここ2～3年山に行きたいという欲求が低下し、山行の参加を控えてきました。久しぶりにアルプスへ行きたいという思いが沸き、まずは低山から体慣らしの意味で天王山に参加しました。

歴史では重要な山であったようですが、なぜこの山がそれほど重要だったのか理解できない。見晴らし台から南を見ると淀川の向かいに石清水八幡が見え、この方面の洞ヶ峠も同じように、なぜ歴史に残ったのかと思う。山の状態が長年にわたって変化してきているため、その時代が理解できずらくなってきている。7時40分にJR山崎をスタート。最初から比較的坂がきつく、気温が高いため汗が流れる。270mの頂上は、木が多く見晴らしはないが、吹上の風が気持ちよい。しかし気温32度ある。ここから水無瀬の滝まで縦走。緩やかなアップダウンの約4時間のコースでしたが、汗が切れまなくなれば体力が削がれた。水無瀬の滝に思わず滝下へ降り、タオルを濡らし汗を拭く。コロナ禍以来長雨もあり室内に閉じこもった生活で、体が夏慣れしていないことに痛感させられました。

※参考

資料：京都府の歴史散歩(下)、大山崎町観光ガイドマップ他

天王山 京阪間の隘路の要地で、山崎の合戦のさい秀吉軍が光秀軍より一足早く山上を占領して戦局を有利に導いた。戦局の“天王山”の言葉はここから出た。登り道7合目付近にある旗立松は山崎の合戦時に秀吉が味方の士気を高めるため老松の樹上高く千成瓢箪の旗印を掲げたところ戦局に大きな影響を与え勝利を手中にしたといわれている。現在のマツは7代目らしい。

酒解神社(自玉手祭来酒解神社) 延喜式内社で乙訓地方で最も古い神社とされる。本殿手前の神輿庫(鎌倉)は、わが国の板倉では最古のもので分厚い角材をくみ上げた形で非常に珍しく重要文化財(重文)に指定されている。

十七烈士の墓 禁門の変(1864年)で敗れて、天王山中で自刃した真木和泉以下十七名の墓所。

水無瀬の滝 水無瀬離宮をつくり水無瀬野で遊猟などした後鳥羽上皇も訪れたという。水無瀬川とともに歌枕となっている

妙喜庵 (JR山崎駅前広場すぐ左手) 山崎宗鑑(室町時代の連歌師)の草庵で、千利休造営と伝わる茶室「待庵」(国宝、桃山時代)があり、秀吉もしばしば訪れたとされる。

離宮八幡宮 (JR山崎駅の右前) 大山崎の油座で有名、中世はほとんど全国の油の製造販売権を独占し、東は美濃、西は九州あたりまで行商していた。斎藤道三は、武士になる前に油問屋の娘を娶り山崎屋と称し油商人として行商をしていたらしい。